

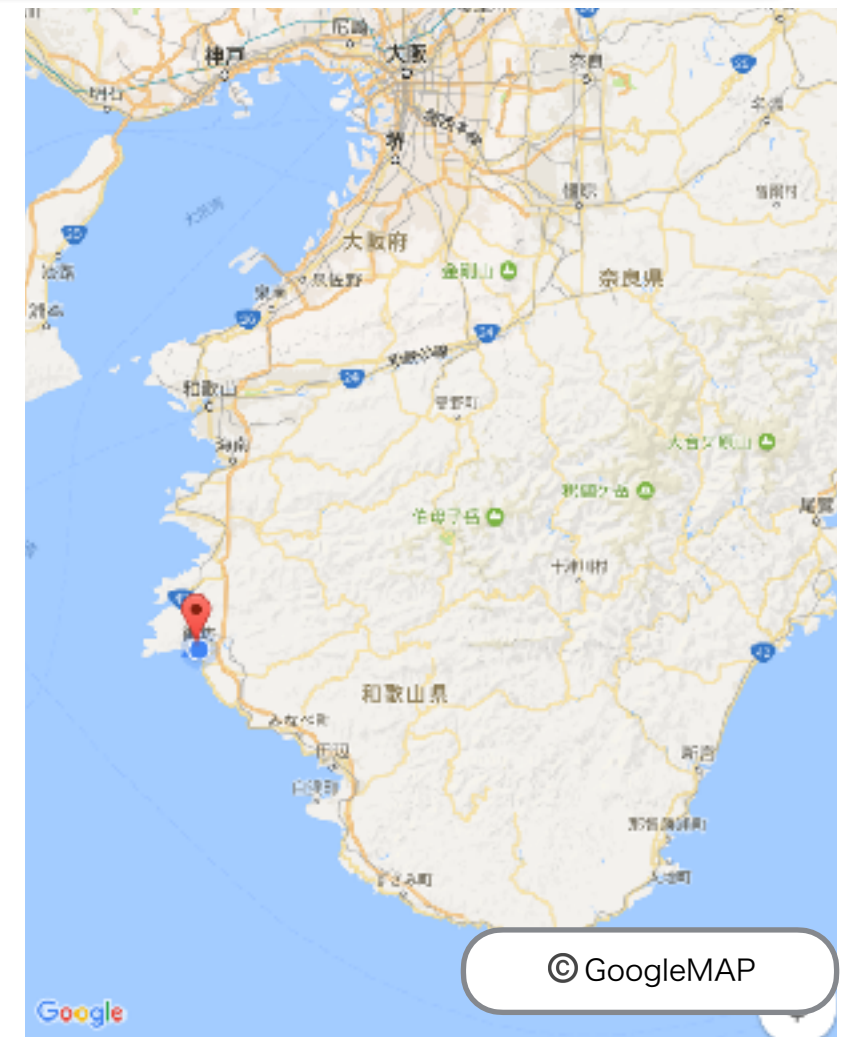
「御坊市認知症の人とともに築く 総活躍のまち条例」 について



御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口泰之

御坊市について

- 紀伊半島海岸部のほぼ中央部
- 総面積：43,91 km²
- 日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域
 河北：地元の方と移住の方が混在。
 中央：官公庁や商業施設が集中。
 河南：農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る
- 昼夜間人口比率：113%



平成31年3月31日現在

総人口	65歳以上人口	高齢化率	日常生活圏域	認知症地域支援 推進員
23,397人	7,279人	31.1%	6圏域	7人
独居高齢者数	要介護認定者数 (第1号被保険者)	認知症日常生活 自立度Ⅱ以上	第7期介護保険料 基準額	地域包括支援 センター数
2,298人	1,836人	1,146人	6,520円	1 (直営)

市の責務と使命、そして理念を条例に

さまざまな場面で認知症の人たちが地域で活躍している。認知症にやさしいまちって何なのか？誰もがより良い暮らしができる地域をつくるという**市の責務と使命を表明するために条例をつくらう！**

認知症の人の視点で、ともにつくる！

なぜ、条例が必要なのか？

施策の内容は変化していくけど、認知症の人の視点重視は変わってはならない。

そのための「**エンブレム**」のようなもの。

ワーキングチーム結成

御坊市のような地方には、研究機関や学術機関などない。有識者会議なんてできないんじゃないか？
でも、同じ思いの仲間がたくさんいる。認知症サポート医、医療機関、事業所、家族、そして本人。

認知症にやさしいまちづくり条例(仮)

作成ワーキングチーム結成

ワーキング会議メンバー

- 市内在住の本人及び家族
- 若年性認知症の本人、パートナー
- 市内の認知症サポート医
- ケアマネジャー
- 認知症対応型デイ管理者
- 病院地域医療連携室相談員
- 総務課（法制担当）
- 企画課（総活躍のまちづくりP）
- 介護福祉課（認知症地域支援推進員）



私たちはJDWGWの
賛助会員です

必要に応じて、日本認知症本人ワーキンググループ（JDWGW）
のメンバー等からのご参加・ご助言をいただく
JDWGWの「**認知症とともに生きる希望宣言**」も参考に

行政内部でも横断的な連携を

ワーキングチームのメンバーには、行政の立場として介護福祉課だけではなく、総活躍のまちづくりプロジェクトの**企画課**、条例の法制担当の**総務課**の職員にも参加要請。

形式的な人選（課長級等）じゃなく、実際の担当者を入れる！



企画課と総務課の強い味方！！

**部署・立場を超えての連携
作成のプロセスを最初から共有**

本人の思い

認知症サポーターが
たくさんいるまち？

認知症カフェが
いっぱいあるまち？

認知症にやさしいまち って、どんなまち？

誰も見守って
くれるまち？

“ならない”予防を
推進するまち？

認知症の人たちが思う
「やさしい」は何なのか？

自分が失敗すると「認知症の人やから」「頭がおかしい」と思われる。
そう思われることが怖くて、失敗したことを隠したくなるんや。
失敗しないように努力してるんやけど、失敗しても気にせんでええ地域になってほしい。
だって、認知症じゃない人も失敗するんやから。

ワーキングチームメンバー御坊市在住 79歳男性

90歳を過ぎたからといって見捨てないで！

90年を生きてきた私だからこそできることってあると思うの。

みんな、私を楽しませようと思って色々してくれるけど、今まで、私のやりたいことを聞いてくれなかった。

そういうことを聞いてくれる、やらせてもらえる地域になってほしい。だって、みんな人生は一度きり。最期まで私の人生。後戻りはできないんだから。

若い人に伝えたいことがいっぱいあるけど、どうやって伝えていかわからないの。それを一緒に考えてほしい。

だから、若い人ともっと話がしたいの！

御坊市在住 91歳女性

私は九十一才になるけれど
今が一番充実している
色々なことに興味があるし
それを支えてくれる沢山の
人がいる
本当にありがたいと思う

その他本人たちの声

- ・ **地域のために**できることはなんでもしたい。
- ・ 認知症になることは、**そんなに怖いことではない**。それを伝えたい。
- ・ 人間関係を大事に、お互いに助け合って。でも、常に周りに人がいると疲れるので**干渉しすぎ（過剰な介護）ない**でほしい。
- ・ 歳を取ったら**好きなように**させてもらえる条例をつくってほしい。
- ・ デイサービスで**お風呂入らないという選択肢**を選ぶようにしてくれ。お風呂に入って亡くなる人いても、入らずに亡くなる人はおらんやろ？

買い物での本人の気持ち

毎日買い物に行っているが、
いつもお札で支払い。
自宅には小銭がいっぱい。

レジで小銭を使えるように
店員が配慮するほうがいい？
「スローレジ」の設置??

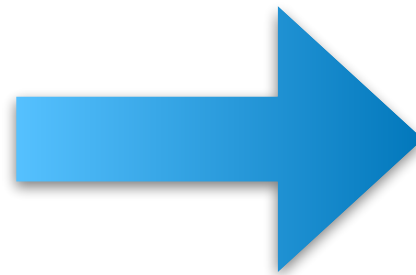
本人は・・・

「後ろの人に迷惑かけるから」

「(レジ等) そんなことされたら恥ずかしいよ」



フレンドリー?
バリアフリー?



デイサービス利用時に、お弁当代を小銭で支払い

本人：小銭を消費 デイ：お釣りの用意不要

課題として捉えるのではなく・・・

考え方次第で！

自宅に小銭がたくさんあることが強みになる！

私が１１年前に認知症になったときは、若くしてなることが信じられない状況であったので、知ってもらうためにあえて「若年性」とつけてきた。

でも、こんな（御坊の当事者の）声を聞いていると、年齢が高いからできないと決めつけられるのではなく、８０代でも９０代でも、年齢に関係なくそれぞれ自分でもやりたいと考えている人がいる。

これまでは若年と高齢者と分けられがちだったが、それを取っ払っていくと、認知症は高齢者だけのことではない、ということが明確になっていくのでは、と思った。

これまでこういうことを聞いてくれなかった。だから、行政が声を聞いてくれることが本当にすごいことだと思うし、聞くだけじゃなく、このように（条例づくりのプロセスで）声を発信し続けてくれれば、私もやろう！と、さらに自らの言葉で発信する本人が出てくると思う。

JDWG 代表理事 藤田和子さん

本人の思い

家族の思い

「家族」について

事務局案で併記していた

○本人

「本人と家族、と併記することはどうか。条例の目的、誰のため何のためなのか曖昧になる。新オレンジプラン等でもそうだが、これまで本人と家族を併記されてきたことにより、その両者の意思が天秤にかけられ、結果、本人が思いを述べることなく家族が代弁するようなことになった。それが本人の意思じゃないことも。だから、ここがずっと変えられない。」

「昔のような家族制でない時代で、また家族のいない人や家族以外のパートナーの存在がいる人は、条例に家族と書かれるとどう感じるのか。例えば、病院受診にパートナーに同行してもらいたいのに、家族じゃないと同席できないという病院もあったりする。そういうことも変えていきたい。」

○家族

「この条例の目的は何なのか。本人を中心にした条例という柱があるのに、家族の声が入ると違う方向に広がってしまうと思う。（家族として）家族の声・思いを入れてほしいという気持ちもあるが、ここは認知症の人1本で通したほうがいい」

条例の理念

市、市民、事業者及び関係機関は、次に掲げる基本理念に基づき、認知症の人が暮らしやすいまちづくりを推進するものとする。

①自分らしく

認知症になってからも希望と尊厳を保持し、自分らしい暮らしができること。

②いつまでも挑戦

認知症の人がその意思によりできることを安心かつ安全に行え、いつまでも新たなことに挑戦できること。

③それぞれが活躍

認知症の有無にかかわらず、全ての市民が暮らしやすいまちとなるためにそれぞれが活躍できること。

市の責務

市は基本理念にのっとり、市民、事業者及び関係機関と連携して、認知症の人が希望を持って暮らし続けることができるよう、**認知症の人の声に耳を傾け**、認知症の人とともににより良いまちづくりを**不断に目指す**。

認知症施策推進大綱にも明記されていますが・・・

本人が発信すること

?

本人の思い → 遠慮??

周りの人が色々としてくれることはありがたいから、別に自分がこうしたいとか言わへんよ。そんなこと言うたら、申し訳ないと思うし。

お世話になってる立場やから、そんなこと言うたらあかん

認知症の人の役割

条例に「**認知症の人の役割**」を明記

- 認知症の人は、暮らしやすいまちを築くために、**自らの希望、思い及び気づいたことを身近な人、市、関係機関等に発信する**ものとする。
- 認知症の人は、地域の一員として、**自らの意思により社会参加及び社会参画**するものとする。

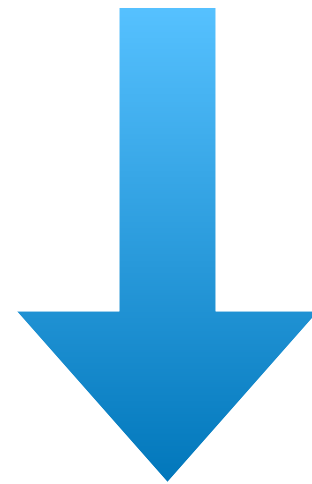
「私たちが、言っているんだね。なんか、色々とやりたいことが出てくるよ！」

認知症施策推進のための協議体に**認知症の人の参加**を位置づけ。

事業者の役割

- 事業者は、認知症の人が安心して自らの意思や力に応じて**働くことができるよう**、その人の特性に応じた配慮を行うよう努めるものとする。
- 事業者は、認知症とともに暮らしていくことに関する知識や対応力を深めるため、**従業員に対し必要な教育を実施**するよう努めるものとする。
- 事業者は、認知症の人が**暮らしにかかわる必要なサービスや支援を安心して利用できるよう環境の整備に努める**ものとする。

認知症にやさしいまちづくり条例



やさしいって言われると、自分たちは支援される、
守ってもらおう立場だと感じる。

認知症の人とともに築く総活躍のまち条例

条例づくりを通じて

○条例づくりを通じての意見

JDWG 代表理事 藤田和子さん

御坊市の条例づくりは、私たちJDWGが目指す社会の実現が可能だと示してくれた。

条例づくりに参加した本人たち

行政主導ではなく、研究者や学者たちがつくったものでもなく、まちがいなく私たちの言葉でつくった条例。これからも地域の一員として活躍していきたい。

将来的に「**認知症の人**」と**区別しない地域**、そして**この条例が必要ない地域**になればと願います。（本人たちより）

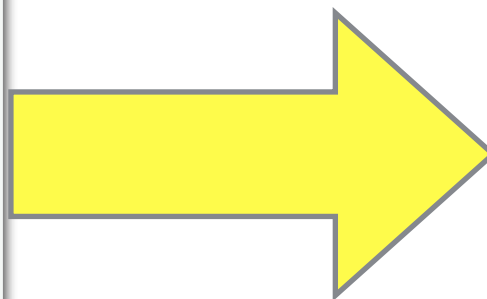
認知症の人の役割
事業者の役割って
どんなことなの？

本人たちの「活躍」

専門職も地域の人と一緒に総活躍！



ノベルティ作製で活躍



もっと
役に立ちたい！



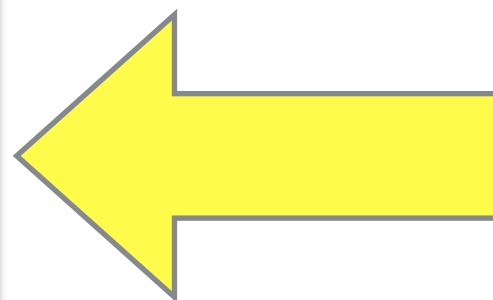
スターチス収穫で活躍



花束作製で活躍



JA青年部に花束を寄贈



ごぼうホッとサロン🔥

みんなで食事しながら語り合う



職員も入浴、風呂上がりのひととき



参加者で記念撮影



ビール飲んでひ孫とゴロ寝



本人が気づき、そして活躍！

●本人が銭湯で

「シャンプーとか石鹸(ボディソープ)とか、どれがどれなのかわからへん。もっとわかりやすく"頭"、"体"、
みたいに書いてくれたら、間違わへんと思うよ」



その声を聞いた市職員が銭湯に伝える

●銭湯側

「実は、スタッフ間でも、お客様が容器を間違っているのを見て何か解決策がないのかと話していたのです。貴重なご意見ありがとうございます！」

子どもから大人までわかりやすく！



認知症の人の視点から、ユニバーサルデザインに！

郵便局に行こうと思って道に迷っている人が・・・
「いつもと違う道から来てしまって、わからへん」



何でいつも行く郵便局がわからなかったのか？



「こうなればいいな！」
本人の声から、住みやすい地域を考える

市内の郵便局長と意見交換

市内の郵便局と「高齢者等の見守り協力に関する協定」を締結していることもあり、懇談会の際に今回の事例を本人視点からの動画を見ていただきながら紹介。



郵便局側

確かにこれはわかりにくい。認知症の方だけじゃなくて、ドライバーにもテマークあるとわかりやすいね。持ち帰って検討します！

テマーク実現に向けて

局長から嬉しいお知らせが！

「早速、局内で共有しました。
必要性が認められて、現在予算
要求中です。エンブレムタイプ
か、壁にペイントするか等を検
討して、**近いうちに実現したい**
と思います！」



この手書き案が実現！？

認知症施策推進庁内連携会議

市の責務の遂行と、行政内の連携体制を構築することを目的に立ち上げ。

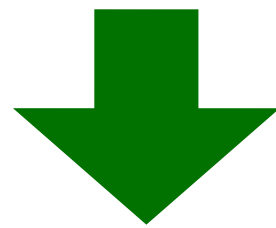
市役所本庁、消防本部、水道事務所、教育委員会等も含め、**すべての部署から** 1名ずつ、23名で組織（若手中心）。

認知症の人が安心して暮らせる地域となるために、それぞれの現場で関わっている認知症の方たちへの対応等を情報共有したり、自由な発想で自分らしく暮らせるまちを話し合う。



例えば・・・選挙管理委員会事務局から

認知症の疑われる方が投票所に来られ、その場で緊張したのか誰に投票していいのかわからなくなり、結局、白紙のまま投票されることがあった。そのときは家族が一緒に来ていて、本人から家族に「誰に投票するの？」と聞こうとするけど、それは担当者から注意しないといけないし・・・
こんなときって、どうすればいいんだろう？



投票所で緊張するのはみんな一緒だよね。
誰もが安心して投票できる環境を考えよう！

認知症の人の声を聴くことは特別なことじゃない。そして「本人視点」も。
御坊市の条例は、「本人視点」からの理念条例である。

条例に関する情報ホームページQRコード



これからも、認知症の人の視点から施策を点検し続け、認知症の人とともに「総活躍のまち」を築いていきたい。



認知症の人とともに築く総活躍のまち”ごぼう”

